

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

ときがわ子ども音楽倶楽部(埼玉県)

| | | | |
|-----------|--|-----|-------|
| 所在地 | 埼玉県ときがわ町 | 設立年 | 2021年 |
| 運営主体 | 一般社団法人さいたまスーパーシニアバンド、 | | |
| 事業目標 | <p>ときがわ子ども音楽倶楽部の活動を通じ、子どもたちが本格的な音楽活動を楽しむ環境づくり、運営と楽器演奏をサポートするシニアと子どもたちの世代間交流、文化活動の発展による過疎化が進む地域の活性化を目指します。</p> <p>【令和3年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ときがわ子ども音楽倶楽部の設立と初年度事業計画の着実な実施 ・地域に根付く活動としての環境づくり、活動継続を目指すための課題を検討する。 | | |
| きっかけ | <p>首都圏における過疎化が進む地域の子もたちは、首都圏にあるが故に都市部の子もたちと同様に見られがちです。しかし実際は、地方の過疎地域の子もたちと同じく豊かな文化活動を体験する機会は少ないのが現状です。一方、都市化現象もあり、地域社会とのつながりは都市部と同様に希薄になりつつあります。そこで、過疎化が進む地域「埼玉県ときがわ町」を拠点に、多彩なキャリアを備えるシニアで構成されている吹奏楽団、一般社団法人さいたまスーパーシニアバンドや地元の活性化組織、ときがわ町役場、ときがわ町教育委員会などの協力のもと「ときがわ子ども音楽倶楽部」を設立しました。</p> | | |
| 団体・組織等の連携 | <p style="text-align: center;">ときがわ子ども音楽倶楽部運営連携図</p> | | |
| 活動場所 | <p>埼玉県ときがわ町の公共施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き生き活動センター ・玉川公民館 ・都幾川公民館 ・アスピアたまがわ | | |

| | |
|-------------|--|
| 活動概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる感染防止対策のため対面での会議が厳しかったことにより、ZOOMにて実施委員会による会議を行った。 ・ときがわ町教育委員会の協力のもと中学校・小学校を対象に、子ども音楽倶楽部の部員募集チラシを配布するなど告知を行った。 ・初回7月24日(土)はオリエンテーション、楽器選択などを行ない、8月～1月まで毎月2回全体練習を行った。さらにプロ演奏家によるパート練習を各3回開催し演奏技術の向上に努めた。 ・コロナ禍で公共施設閉鎖時は、部員のモチベーション維持のため、講師宅で特別講座を開催したり、各自自宅で担当楽器のe-ラーニングができる様教材を作成し、動画をYOUTUBE配信した。 ・成果発表会は2月6日(日)に予定し、事前に会場でのリハーサルをおこない本番に備えたが、オミクロン株感染拡大により直前で中止とし、さいたまスーパーシニアバンド・ときがわ町民バンドの演奏と、プロ講師陣の演奏を録画し子供たちに配信した。 ・2月27日に最後の練習を兼ね、部員のご家族に成果発表の演奏を披露した。 |
|-------------|--|

○本事業による成果

- ・過疎化が進む地域のため、民間や公共のクラブ活動が少なく、中学の部活の選択肢も少ないときがわ町にて、子どもたちのための音楽倶楽部を設立することにより、子どもたちが地元にて音楽活動ができる道筋ができた。
- ・コロナ禍で事業推進に腐心したが、計画した練習日はほぼ確保し海兵隊、茶色の小瓶の2曲を合奏できた。
- ・成果発表会は新型コロナ「まん延防止等重点措置」で中止となったが、子どもたちには関連動画を鑑賞でき、倶楽部の学びにつながるように考慮した他、ご家族には最後の練習日に成果を披露した。
- ・アンケート、ヒアリング等のまとめは「別添」するが、楽器の練習を通したシニアと子どもの交流は自然に進み、子どもたちの家庭では約8割が家庭での音楽倶楽部の会話が合ったというアンケート結果となった。またヒアリングの結果、約8割の子供たちが活動の継続を望んでおり、コロナ禍であるが活動成果が出ている。また、コロナ禍で対面での検討会の実施が難しかったため、キャリア専門の大学教員からのアドバイスが受けられなかったため、次年度以降の課題としたい。
- ・本事業の成果を、ときがわ町・同教育委員会に報告し意見交換することにより、今後、学校の部活動との関係性につき話し合う契機となった。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・楽器未経験の児童・生徒も多く、楽器の取り扱いから丁寧にサポートすることを心掛けた。
- ・練習時は、毎回さいたまスーパーシニアバンド、ときがわ町民バンドのメンバーがサポートした。地域のコーディネート人材として発揮できたと考える。
- ・コロナ禍で施設が利用出来ない期間もあり、生徒が自宅で練習できる様、楽器パート別に演奏教材を動画作成しYOUTUBEにて配信した。
- ・プロ演奏家の楽器パート別指導は年間3回実施し生徒のモチベーションアップを図った。(写真参照)



○運営上の工夫

- ・学校行事を配慮した練習日程の調整と練習施設の確保
- ・新型コロナウイルス感染状況に応じ、公共施設の使用等につき、ときがわ町と情報共有し対処した。
- ・保護者との諸連絡は基本E-メールを使用し、タイムリーな情報共有に努めた。
- ・練習にあたっては感染防止策を徹底し、クラスターを起こさないよう対策した。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・コロナ禍の影響もあったが、練習日程等の変更を余儀なくされ会場の確保に苦慮した。
- ・ときがわ町、教育委員会との連携は、令和3年度の実績ならびに今後の運営につき協議し、より一層深まった。
- ・児童・生徒が増加した場合への対応として、レンタル楽器の種類と数量を確保することが必要となる。
- ・学校のクラブ活動と両立出来るよう、部員の募集、子ども倶楽部の運営を工夫する。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

学校部活動の地域移行に関しては以下の方針で取り組む。

- ・ときがわ町教育委員会との連携により中学校部活動が抱える課題を共有する。
- ・地域移行の受け皿として、プロの音楽家、アマチュア吹奏楽団のサポート体制を維持する。
- ・活動成果の発表、周辺地域団体との交流の場を設定し、活動のモチベーション維持を図る。
- ・プロの高質な演奏を聞く機会を設定する。
- ・「ときがわ子ども音楽倶楽部」を学校部活動の地域移行モデルとして確立をめざす。

| | |
|---------------|--|
| 参加者 (予定人数) | 対象学年 人数:14名(中学生4名、小学生10名) 今後の予定人数:中学生を中心に30名を予定 |
| 募集方法 | チラシ配布(中学校、小学校)、町広報誌掲載 |
| 指導者 | ときがわ町在住プロ演奏家: 2名 その他楽器パートのプロ演奏家: 5名 さいたまスーパーシニアバンド、ときがわ町民バンド: 10数名 |
| 移動手段 | 保護者による送迎 |
| 活動費用 | 参加料:1,500円/月、楽器レンタル料:1,000円/月 |
| スケジュール | 【全体練習】 2021年7月24日、8月14日、28日、9月11日(講師邸)、25日(自宅でeラーニング) 10月9日、23日、11月13日、27日、12月11日、25日、1月15日、29日、2月27日 【プロ演奏家パート練習】 11月6日、20日、12月4日、25日、1月9日、29日 【成果発表会】 2月6日(中止、さいたまスーパーシニア、町民バンド、プロ演奏の録画) * 2月27日にご家族限定で、練習を兼ね2曲の演奏を披露した。 |
| 保険加入等 | 行事参加者の傷害危険担保契約 延べ被保険者数 400名 |

【活動の様子(写真添付)】



令和3年度 文化庁地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業
「ときがわ子ども音楽倶楽部」に関わるアンケート結果について

1. アンケート調査概要について

①アンケート対象

- ・ときがわ子ども音楽倶楽部に参加した子供たちの保護者 10名
- ・子どもたちの練習をサポートしたシニアバンド等団員 10名
- ・子どもたちの練習を指導したプロの指導者 6名

②アンケート実施期日

2022年2月上旬

③アンケート内容

子ども倶楽部に参加した感想等を各々の立場で記述いただいた。

2. 対象者別アンケート結果

(1) 保護者に対するアンケート

①子どもの年齢

小学2年生 1名、小学3年生 1名 小学4年生 1名、小学5年生 4名
小学6年生 2名、中学1年生 1名

②楽器を習ったことが初めてかどうか

初めて楽器を習った子どもたちは4名であり、何らかの楽器を習っている子どもたちが半数以上を占めた。特にピアノを習っている子どもたちが多かった。

③参加したきっかけ

知人からの薦め、中学に入ったら吹奏楽部に入る準備として、小学校でメンバー募集のチラシを見音楽をやっている家族の影響、楽器を吹けるようになりたかったなどの回答があった。

④練習回数や時間

大多数がちょうどよい回数や時間という回答であった。今回成果発表を行う予定であったが、もし成果発表を行うのであれば時間的に不足であったという回答もあった。また、パートレッスンなどの個別指導が良かった、子どもの練習は2時間が限度という回答もあった。指導者に熱心に教えてもらったことに満足している回答が多かった。

⑤家庭での練習、家庭での子ども音楽倶楽部に対する話題

大多数の子どもたちは、親の促しなどもあるようだったが、家で練習をする時間を持っていた。また、今回のために作成した YOUTUBE 動画を見て吹き方を勉強したり、復習や音取りをしていたこと、家族で YOUTUBE を見ていたケースがあったことから、動画での自宅練習は効果があるようだった。褒められて嬉しかったことや、友達の様子、指導者のことを家庭で話す子どもたちもいた。

⑥参加した感想

貴重な体験ができて感謝しているという回答が多かった。子どもたち自身が上達を実感したという声も多かった。また、学校以外で地域の人たちと一緒に活動する場所が大切だという回答があり、練習が終わると家庭で楽しそうに話しているという回答もあった。プロの方に指導してもらい音の出し方など刺激になることがたくさんあったなどの回答もあった。音楽への苦手意識が緩和されたという回答もあった。

⑦次年度「ときがわ子ども音楽倶楽部」が実施された際は参加を希望するか

| | |
|-------------------|----|
| 希望する | 8名 |
| 思案中 | 1名 |
| 希望しない（部活が忙しくなるため） | 1名 |

以上から、参加者の大多数は継続を希望している。

(2) シニアバンドに対するアンケート

①性別・年齢

男性 3名、女性 7名

30歳代：1名、 50歳代：3名、 60歳代：4名、70歳代：2名

②（一社）さいたまスーパーシニアバンドが、地域の子どもたちに音楽活動を支援することについて

とても素晴らしい活動であるという回答が全てであり、積極的に支援をしていきたいという回答であった。具体的には、自分たちが子どもの頃にはこのような組織された活動が無かったこと、地域の部活動として根付き子どもたちの選択肢が増えることがよいこと、小さいころから楽器に触れられる良さ、多様な子どもたちや地域の人たちが集まりひとつの音楽をやることの良さ、プロの指導者に最初から教わると正しい知識が身に着くこと、仲間づくりのきっかけなどがあげられた。また、このような活動がどの地域にも平等にあった方がよいことや、一人でも多く人間性の豊かな心を持った人間を育むお手伝いができることにやりがいを感じるなどの声もあった。

③子どもたちの練習をサポートした感想

子どもたちの上達の早さを記載した回答が目立った。また、子どもたちが楽しんでいたことや、シニアやプロの指導者のアドバイスを素直に受け入れていたこと、子どもたちが頑張って練習していたこと、音が出る喜びを共有できたこと、子どもたちをきっかけに自分が初心に戻れたこと、生き活きとした子どもたちを見たことでシニアが手伝った意義を感じたことなどがあげられた。その他、楽器選択の時にデモなど楽器紹介を行った方が良いのでは、練習動画などの教材を増やした方が良いなど次回に対する意見も出た。

(3) 指導者に対するアンケート

①アンケート回答者

トロンボーン、ホルン、クラリネット、打楽器、フルート、サクソフォンの指導者、30歳代から70歳代までの6名にアンケート依頼。

②(一社)さいたまスーパーシニアバンドが、地域の子どもたちに音楽活動を支援することについて

非常に意義のある取り組みであるという回答が全てであった。具体的には、人間性を豊かにするために、人に優しい社会をつくるために必要な活動であること、学校での機会が無くなっている中で、運動以外の選択肢が増え、子どもたちの趣味の幅が広がる良さがあること、地域の子どもたちが良質の音楽に触れる機会はほとんどないが、地域には音楽家が居住していたり多くの学びの場があり、学校教育の限界を地域が受け持つことができる土壌があれば、地域の子どもたちにとってはその地域の良質な力に育てられることがあらゆる面から学びになり社会の一員としての自覚を持つこと、などがあげられた。

③子どもたちの練習を指導した感想

以下、簡単に回答内容を記載する。

- ・吸収力のすばらしさに驚かされた。
- ・初心者の時ほど楽器に対する正しい心構えと姿勢が大切であり、初めて耳にする説明に驚いているのを見て、その重要性を再認識した。
- ・どのように音楽を表現してゆくかを練習すること自体に楽しさがあるようだった。
- ・音楽的な上達を目指す指導というよりは、音楽を通して日常の話や学校のことなど、地域の人同士のふれあいの場としての側面が大きくなることに意義を感じた。
- ・真面目に取り組んでおり上達も早かった(複数回答)。